

みなとまち新潟
歴史探訪 51
新潟 歴史文化課
☎025-278-3260

新潟の「潟」
新潟市域の平野部には古くから大小の湖沼があり、これらは「潟」と呼ばれていました。1730年以前の新潟市域の地形を眺めると、信濃川・阿賀野川の二大大河を中心に大小の潟が点在し、それらをつなぐ川が存在がわかります。太古の昔から、市域に生きる人々は川湊から船を使って川と潟を伝い、海に出ていました。
潟は交通路だけでなく、漁場やアシ刈り場などとしても利用されていました。その多くは江戸時代からの新田開発や戦後の宅地化で姿を消しましたが、福島潟(北区)や鳥屋野潟(中央区)、佐潟(西区)をはじめとする16の潟が現在も残っています。
潟にはヒシやハス、ヨシの群落や、オニバス、ミズアオイ、アサザなどの希少な水生植物が見られるほか、ヒシクイやオオハクチョウ、コハクチョウといった水鳥の飛来地となっています。中でも佐潟は、水鳥の生息地である湿地を保護するために制定されたラムサール条約に登録され、国際的にも重要な湿地となっています。



1730年以前の新潟市域の地形



ラムサール条約湿地の佐潟

連載
新潟の食を巡る②
泊まれる料亭 高島屋 (西蒲区・旅館)
高志の宿
歴史ある企業や店舗を訪ねます。

新潟の食にこだわった日本料理
代々岩室で庄屋を営んできた高島家が戦後に始めた旅館で、築260年以上の屋敷でお客様をお迎えしています。
「もともと庄屋には、良寛さまをはじめとする文人をお泊めし酒や食事を振る舞う文化がありました」と女将の高島さん。「新潟の食にこだわった日本料理でおもてなしをしています。のどぐる塩釜焼きと岩室産コシヒカリは、当館お薦めの一品です」



のどぐる塩釜焼き



女将
高島 基子さん

旅館は日本の文化
高島家の始まりは、1615年の大坂夏の陣にさかのぼります。「豊臣方だった先祖は、現在の滋賀県高島市から家来と共に逃げ、岩室にたどり着いたそうです。伝承では、温泉は7代目の当主が発見したとされています」
岩室は温泉と共に発展し、旅館には岩室の歴史や文化が詰まっています。高島さんは「今は旅館にとって大変な時代です。ニーズに合わせて変化しながら、次世代にも『旅館』という日本文化が残ってほしいです」と話してくれました。

新潟で紅葉を楽しもう
秋のお薦めスポットを紹介

新潟市内の紅葉の見頃は例年11月中旬ごろです。市内に点在する、かつての豪商・豪農・大庄屋の館で、秋の庭園と歴史ある建物を楽しんでみませんか。

新潟市魅力発信サイト▶
「スキマ時間の楽しみ方」



▲みなとまち新潟の繁栄ぶりを物語る

旧齋藤家別邸(中央区西大畑町)
時 9時半～17時
※月曜、11月24日(水)休館
¥一般300円、小・中学生100円
※土・日曜、祝日は中学生以下無料
問 同施設(☎025-210-8350)
■庭園ライトアップ
日 11月12日～21日の金・土・日曜
17時半～19時半 ※散策不可
¥ 200円(別途要入館料)



▲大庄屋の住宅の庭で見る紅葉

旧笹川家住宅(南区味方)
時 9時～17時
※月曜、11月24日(水)休館
¥一般500円、小・中学生300円
※土・日曜、祝日は中学生以下無料
問 同施設(☎025-372-3006)



▲大広間から見る見事な紅葉

北方文化博物館(江南区沢海2)
時 9時～17時
¥一般800円、小・中学生400円
※日曜、祝日は中学生以下無料
問 同館(☎025-385-2001)
■庭園ライトアップ
日 11月13日(土)・14日(日)17時～19時
¥ 入館料



▲130種類約2,000本のモミジが有名

中野邸記念館(秋葉区金津)
日 11月23日(祝)まで9時～17時、
24日(水)～30日(火)9時半～16時
※庭園は閉館30分前まで
¥ 1,000円(高校生以下無料)
問 同館(☎0250-25-1000)



▲武田家家臣の子孫・澤家の復元屋敷

澤将監の館(西蒲区打越甲)
時 9時～16時半
※月曜、11月24日(水)休館
¥一般300円、高校生150円
問 同館(☎025-375-1300)

差別・偏見をなくしましょう
圃広聴相談課(☎025・226・1025)